

# 里山3E!(カッコイイ!キモチイイ!オイシイ!)で田んぼを守る

●市民が米づくりを体験できる田んぼで理事・石田がお手伝いをしています

●OL、トラクターに乗る。  
 カッコイイ!  
 谷戸の15aの市民自給田んぼに集まった12組の会員は、「野菜はけっこう自給しているから、ぜひお米も」という30代農好き夫婦。「なつかしの里山空間で楽しみながら食の安全を」という40代の農体験初心者。「数年後には田舎で田畑を耕して暮らしたい」という50代山仕事好きおじさん。「子どもが学校水田で田んぼ好きになったので家族みんなで」というファミリー。ピチピチ(?)のOLなどなど。作業は田起こしから。トラクター(中型・小型)も耕うん機も初めてのみなさんを指導農家(園主)と私とでどんどん運転させる。トラクターに夢中になるOLさん。「田舎で小規模なら、まず耕うん機を」のおじさん。草刈りも、背負い式の刈り払い機を女性もチャレンジ。手作業では広すぎるが、機械数台では「もつとやりたい!」と仕事の取り合い(?)の雰囲気。でも、気分のいい田んぼでは、会員同士あくまで和やか。

代かきも同様に小型機械数台。耕うん機で田の中を動き回ったみなさん、泥の跳ね返りを浴び、けっこう笑える姿。で、農園名が決定。「なぐに谷戸ん田」横浜市の助成申請もOK。鎌を使つてのクロ付け(あぜ塗り)もしっかり経験。機械も使い本格的な田植え準備もこなす会員。お膳立てをしてもらつて田植えの体験水田とは大きく違う。OLがトラクター! そう! プロのお百姓気分、カッコイイのだ!

●泥、ハンモック、キモチイイ!  
 赤米約5aの田植えは手植え。子どもも大人も泥の中で「キモチイイ!」。自分たちで種まきをした苗を期待を込め植えた。翌週、コシヒカリ10aは機械で。機械を使つているのか、機械に使われているのか??で、みごとにシユプールも...。

作業の間には、アジアン志向の若者が田を囲む谷戸の雑木林にハンモックを張り、カフェを。植えられた稲をながめなが

ら揺られる気分がまたいい。このハンモックカフェはその後も恒例、好評。なかでも、6月半ばの田の草取りの日は、そのままホタルの夕べとなり、揺られ揺られ稲の上の光に感動。そう、谷戸田にはキモチイイがたくさん!

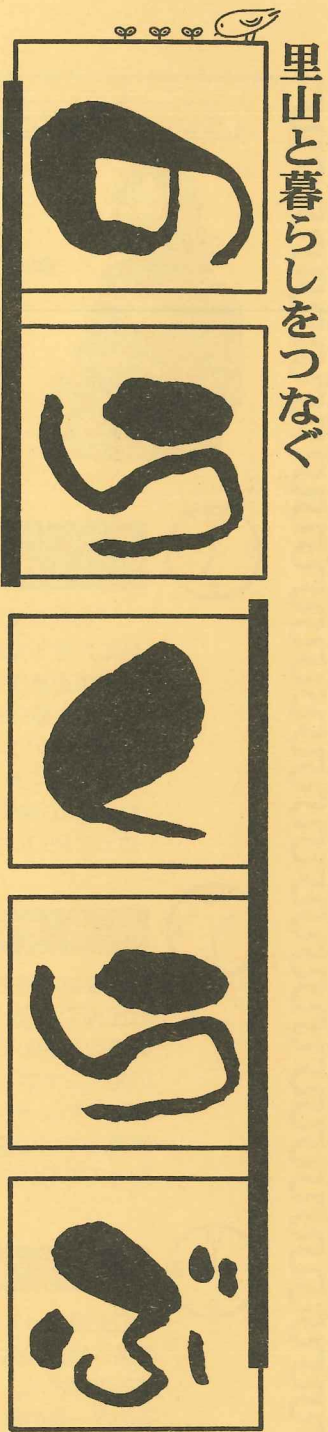
●新鮮野菜、焼き芋、オイスイ!  
 田起こしの日の会員初顔合わせの園主の挨拶はイチゴの差し入れ。その後も、トウモロコシ、西瓜、梨、栗など新鮮地場野菜の差し入れ多数。稲刈りや脱穀の日には、焼き火で焼き芋。焼き火の楽しさに大人も子どもも全身で秋を感じ、芋も雰囲気もオイスイ! もちろん、会員でヤマワケした無農薬米は満足のオイスイ!

●市民自給―農地保全構想  
 この市民自給田んぼには、こんな3Eやその他もろもろの楽しみがあり、そして意義も多々。〈市民が米作りを学ぶ〉田植えと稲刈りだけでない本格的米作

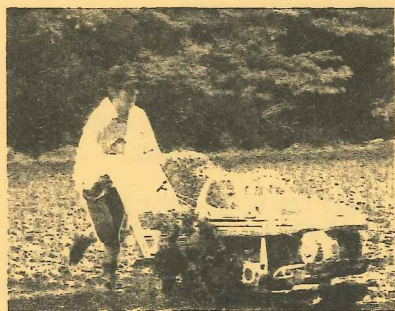
り全部が体験でき学べる。田起こしに始まり、苗作り、田作り、田植え、水管理、草取り、草刈り、防除、鳥除け、稲刈り、脱穀、籾摺り、精米。そして、来年への準備などなど。小規模ながら、その気になればトコトン学べる。就農への道も!?

〈田んぼを守る〉米価崩落など「瑞穂の国」の稲作もピンチだ。ここ横浜「田園都市」に残る田んぼも毎年確実に埋められ減っている。少しでも歯止めをというのがこの企画の第一の動機。市民が関わり、行政の支援も受け、反収もウン倍。

3Eでおつりが来るくらいに楽しみつつ実践している「なぐに谷戸ん田」。今後もご注目を。理事 石田周一 (社会福祉法人グリーン常務理事)



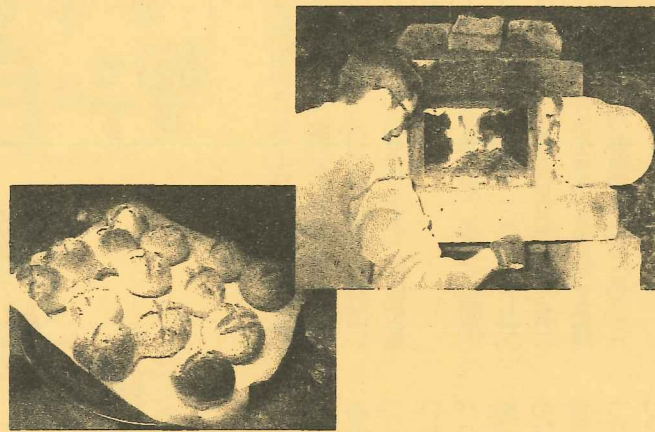
冬号  
 平成20年  
 No.22



# NORAよりかしこ

第2日曜は川井緑地へ!

横浜市旭区で地主さんの許可を得て毎月第2日曜日に定例活動をおこなっています。以前はうつそうとしていた森が人の手が入ることとで心地よい森になってきました。12月の作業日は鮮やかな樹々の紅葉が青空に映えて...横浜のど真ん中でこんな森を体験できるなんて!作業は間伐とセルフビルドの石窯の改良。煙突をつけて本格的になった薪窯でさつそくピザとパンを焼きました。森での過ごし方は他にもいろいろ。ぜひ近くの森の手入れに参加しましょう。



旭高校と協働で第5回川井緑地クリーンアップ作戦決行!

川井緑地ではゴミの不法投棄が大きな問題になっていました。4年前にNORAの呼びかけで、緑地に隣接する県立旭高校の生徒さんたちとクリーンアップ作戦が行われなんと17トンものゴミが回収されました。この活動で地域の関心も高まり、年々回収量は減ってきたものの、今回(11月24日)も2.5トン。森を大切に思う人が増えればゴミも減るはず。

「ぞくぞく神奈川」地モノ市

11月18日、恒例の伊勢佐木地モノ市が開催されました。「おいしい地モノ野菜を食べる↓生産者が元気になる↓神奈川の農(緑)が守られる」とがんばっている実行委員会の皆さんお疲れさまでした。ご支援いただいている協同組合伊勢佐木町商店街の方々ありがとうございました。

NORAのブログ、がんばってます。

更新していないと見てもらえなくなるブログですが、部活動の様子など部員さん自ら書いてくださ

っています。『のらくらぶ』の取材で書ききれなかった「もつたない話」も載せていきたいと編集委員さんも意欲的。見てくださる! <http://www8.ocn.ne.jp/~satoyama/> ブログ「ひねもす里山。」

速報! 神奈川県で里地里山条例が可決。

理事吉武美保子が検討委員会に参加していた「里地里山の保全、再生及び活用促進に関する条例」が平成19年12月20日の県議会で可決されました。地域を主体に農林業を尊重しつつ里山のもつ多様な機能(自然、農文化、コミュニティなど)を守り育てていくことを定めています。

旧年中は大変お世話になりました。一月からNORAの新年度です。今年もNORAと『のらくらぶ』をよろしくお願い致します。新会員さんをぜひご紹介ください。



のらくらぶ~冬の号 平成20年1月15日発行

【発行・編集】  
 特定非営利活動法人よこはま里山研究所~NORA  
 のらくらぶ編集委員会  
 〒232-0017 横浜市内南区宿町2-40大和ビル119  
 TEL 045-722-9674 FAX 045-722-9675  
<http://www8.ocn.ne.jp/~satoyama/>  
[nora-y@estate.ocn.ne.jp](mailto:nora-y@estate.ocn.ne.jp)

【NORA会員および年会費】  
 運営(正)会員: 12,000円  
 一般(準)会員: 3,000円  
 賛助会員: 個人一口10,000円、法人三口以上

\*いずれも「のらくらぶ」送付・イベント割引など特典あり。  
 郵便振替口座: 00200-4-72504 よこはま里山研究所  
 会員募集中! お問合せはNORA事務局まで。

今日のNORAびとは



小間葉子さん  
(横浜市東区 減農薬・有機栽培農家)

直売所は学びの場、あてにされる幸せ

農家に生まれ育ち、「農家の嫁にはならない！」と決めていたのに嫁いだ先は農家。「やるからにはマトモな所得を目指す！」と意気込んでいたけれど…。昼夜問わずパワフルに働く小間さんのお手伝いに行ってきました。



5:00…加工場の明かりがこぼれるキャベツやブロッコリーの畑の先は、また闇の中

「あなたたち、なんで休みの日にわざわざ取材に？」慣れないお手伝いに戸惑う私たちを気遣いながら、こんにゃく作り、あんこを煮詰める、お赤飯を蒸かす、高菜の漬物を詰めるなど手際よく作業が進みます。すごい！地下鉄立場駅と、自宅の直売所で「本物の味を届ける」加工品にはアイデアがいっぱい。「お母さんの味みたいな素朴なものが、結局時代に残ってゆくんだよね。高齢者の方も喜んでくれるのが嬉しいの。でもそれぞれの納得できる味をだすのに何年もかかった。“求めていた味をやっと見つけた”とお客さんに言われた時は本当に嬉しかった。」



直売所には、次々とお客さんが。



10:30…野菜の収穫 今日18種類

減農薬、有機肥料栽培にこだわり、少しずつ種を蒔く時期をずらし、常に出荷できるよう工夫。「一畝ごとに成長過程がよくわかるから、“理科の教科書みたい”と言われるの。」畑からお客さんの手にわたるまでいねいに大事に扱われた野菜はどれも美しく見えます。「それでもお客さんに“ちょっとこれ虫ついてるじゃない!”と注意されることもある。減農薬の本当の意味は理解されにくい。だからこそ大勢の人に農業のことを知ってもらいたいよ」



畑での小間さん。



12:00…立場駅直売所オープン！小間さんパワー全開！

ご夫婦揃って直売所準備。あっという間に人だかり。加工品の特徴、野菜の食べ方、お客さんとの会話がはずみ、19時の閉店まで休まず笑顔で対応する小間さん。「お客さんの“待ってたんだよ〜”がやりがい。あてにされるのが一番の幸せ。いろいろな人が来てくれるから直売所は本当に学びの場だよ。」人と人、人と食物をつなぐ直売所は奥が深いです。「今後は若い世代に立ち寄ってもらおう工夫をしていきたい。でも農業を次の世代へ継がせていくのは難しいのよね…」



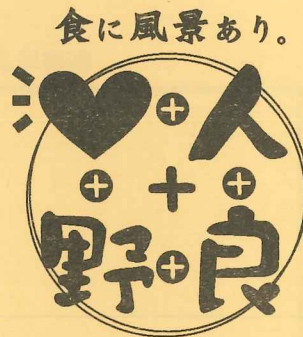
20:30…夕食を片付け、義父母もそろそろ休む頃、加工場へ

「直売所のない日の明るい日は畑作業、暗くなったらナイター営業で加工食品の準備なの。在庫を作っておかないとお客さんの注文に対応できないからね。届けられる時に届けたいから。」と笑顔でさらり。

レポートのひとこと

元気な人のもとには人は集まる。ならば元気な農業のもとにも人は集まるはず。農業のことをもっと知り、多くの人に知ってもらいたい。本物を追求する人のみが本物の笑顔になる。NORA人の共通点を感じた1日でした。(編集委員：園田理江)

野菜本来の「おいしさ」をいただけるのは、こだわりの土作りと育て届けてくれる方の手間と時間と愛情があるからなのですね。町に住んでいても、畑や田んぼや森とつながっていることを実感しながら、土の上からの視点で暮らす…目指したいです。(編集委員：鈴木美奈)



横浜をよやまん 誕生顛末記

**N**ORA部活動が立ち上がりました。各活動が始まる前、「一緒に文化祭をやろう！」という声が上がると、11月3日(農と緑のふれあい祭)に出席して、これを部活文化祭第一回に位置づけようということになりました。

**ど**んなに忙しな話し合いの結果、「横浜をよやまん」を作りました。「横浜をよやまん」は、NORAが立ち上がったとき、よやまを呼ぶことになった。横浜の里山を表現する際、NORAでよやまを呼ぶことにした。よやまが6年たち復活。私たちが部員が、地元のものを使っているか、あついでいしものを作れるか挑戦しようとした。よやまを呼ぶことにした。よやまを呼ぶことにした。

**い**ろんな研究部が、試作担当です。もちろん、よやまは「横浜」。地域おこしに役立てるべく、緑区新治の小麦粉、川崎市磯郷の直売所のサツマイモ、都筑区大野の平野フキなどより特別に採集した自家産品「よやま」を、よやまを呼ぶことにした。よやまを呼ぶことにした。

**い**ろんな研究部が、試作担当です。もちろん、よやまは「横浜」。地域おこしに役立てるべく、緑区新治の小麦粉、川崎市磯郷の直売所のサツマイモ、都筑区大野の平野フキなどより特別に採集した自家産品「よやま」を、よやまを呼ぶことにした。よやまを呼ぶことにした。

**い**ろんな研究部が、試作担当です。もちろん、よやまは「横浜」。地域おこしに役立てるべく、緑区新治の小麦粉、川崎市磯郷の直売所のサツマイモ、都筑区大野の平野フキなどより特別に採集した自家産品「よやま」を、よやまを呼ぶことにした。よやまを呼ぶことにした。



NORAレポート 熱帯産のカブト・クワガタ、かながわを闊歩する!?

NORA事務所のそばに、犬のトリミングサロンがオープンした。ガラス張りの店内をのぞくと、ミニチュアダックスの他に、なんとヘラクレスオオカブトが飼育箱にいるではないか…！ いくつも並んだプラケースには、外国産クワガタムシの幼虫が飼育されているらしく、長ったらしいカタカナ名がラベルに書かれている。

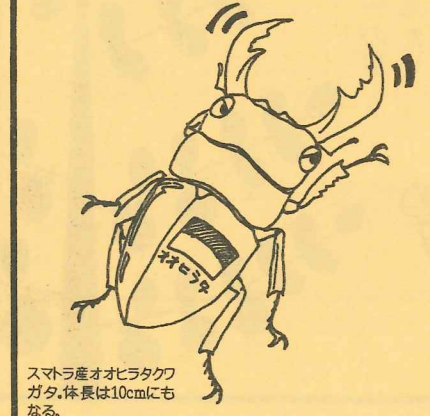
昆虫は農作物への被害が出る可能性を心配され、生きた状態での輸入は認められていなかった。しかし1999年に植物防疫法が緩和されて輸入しやすくなったことから、マニアを中心にひろがり、さらに子どもたちの間に流行したカードゲームがブームに拍車をかけた。2000年には244,000匹の輸入数が、2005年には1,923,000匹と激増している。さらに「カブト・クワガタブリーダー」によって国内で数が増やされ、普通のスーパーでも売られるようになった。

一昨年の夏に横浜市東区でアトラスオオカブトのオスを拾ったことがある。神奈川県立生命の星・地球博物館の学芸員によると、輸入当初は県内の野外で見つけた人がびっくりして博物館へ報告したこともあったが、その後、採集されることがあまりに「当たり前」になってしまい、今では報告されることもほとんどないそうだ。

外国産クワガタムシは、2005年に外来生物法が施行されたのにあわせて「要注意外来生物」に選定された。それは、現時点では外来生物法の規制対象(特定外来生物～ブラックバスやアライグマなど)にはなっていないものの、生態系や人の生命、農林水産業などに対する被害が指摘されているため、今後は取扱いに注意が必要、と認められた外来生物のことである。

すでに、野外で外国産と日本産(在来種)との雑種クワガタが見つかっており、このままでは日本の風土に根ざした在来種の遺伝子が失われかねない。それは、地域の安定した生態系のバランスを崩すことにつながり、自然にも、私たちの暮らしにも、将来どのような影響を及ぼすのか予測できないのだ。

熱帯産の大きなカブト・クワガタは、日本の雑木林には似合わない。絶対に、野外に放さないで！お願い！！



スマトラ産オオヒラタクワガタ、体長は10cmにもなる。

